

トルコの金融市場動向 Weekly Report

【2018年3月3日～2018年3月9日までの推移】

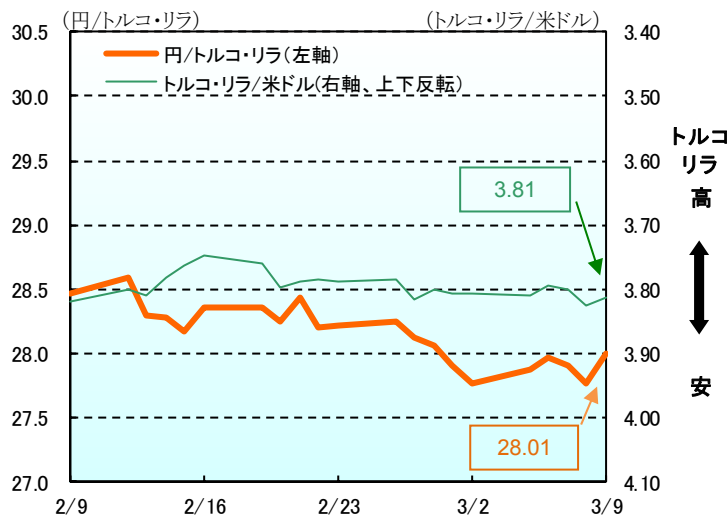
【1】先週の回顧

先週のトルコ・リラ相場は1週間を通して見ると対米ドルではほぼ横ばい、対円では上昇しました。またトルコの2年国債金利は上昇しました。

前年同月比で見た2月のインフレ率は、1月からは鈍化したものの、事前の市場予想ほどは鈍化しませんでした。また金融政策委員会では、事前の市場予想通り、後期流動性貸出金利を含めた主要政策金利はすべて据え置かれました。声明文では、インフレ率が高止まりを続けている現状に、警戒感が示されました。

トルコ金融市場では、インフレ率の発表を受けてインフレの抑制には相応の時間がかかるとの思惑などからトルコの2年国債金利は上昇しました。トルコ・リラについては対米ドルではほぼ横ばいでの推移となった一方、円安の進展を背景に対円では上昇しました。

【トルコ・リラ 為替推移】 (2018年2月9日～2018年3月9日)



※四捨五入の関係で数値とグラフの目盛りが一致しない場合があります。

【2】今週の見通し

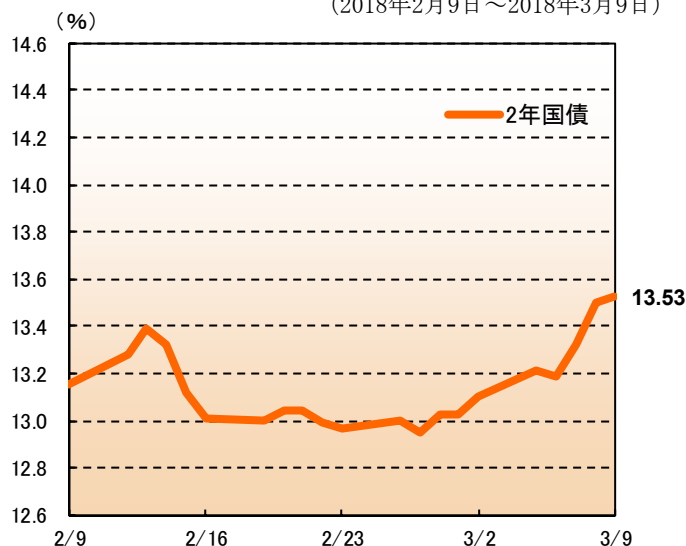
今週は1月経常収支の発表が予定されています。事前の市場予想では、12月よりも赤字額が縮小する見込みとなっています。

足元では、トルコとシリアの関係が相場の材料になりやすいと想定します。トルコは1月下旬からシリアのクルド人勢力の掃討を目的に国境を越えた軍事行動をしており、地政学リスクの高まりが相場の重しとなっています。しかし、大規模な戦争状態に発展しなければ、トルコ経済への影響は限定的と考えています。

政府の景気刺激策を背景とした堅調な個人消費や、欧州向けの輸出の増加により景気の回復が続いていること、金利が高い水準にあることから、状況が落ち着きを見せればトルコは再評価されやすいと考えます。

【トルコ 金利推移】

(2018年2月9日～2018年3月9日)



(出所:ブルームバーグより大和投資信託作成)

当資料のお取り扱いにおけるご注意

■当資料は、ファンドの状況や関連する情報等をお知らせするために大和投資信託により作成されたものであり、勧誘を目的としたものではありません。■当資料は、各種の信頼できると考えられる情報源から作成していますが、その正確性・完全性が保証されているものではありません。■当資料の中で記載されている内容、数値、図表、意見等は当資料作成時点のものであり、将来の成果を示唆・保証するものではなく、また今後予告なく変更されることがあります。■当資料中における運用実績等は、過去の実績および結果を示したものであり、将来の成果を示唆・保証するものではありません。■当資料の中で個別企業名が記載されている場合、それらはあくまでも参考のために掲載したものであり、各企業の推奨を目的とするものではありません。また、ファンドに今後組み入れることを、示唆・保証するものではありません。

販売会社等についてのお問い合わせ⇒大和投資信託 フリーダイヤル 0120-106212(営業日の9:00～17:00) HP <http://www.daiwa-am.co.jp/>